

日 ASEAN 交流を深め、心を豊かにする さまざまなプロジェクト ～社会・文化の観点から～

ASEAN 日本政府代表部 一等書記官
山崎 久路

■はじめに

2023 年は、日 ASEAN 友好協力 50 周年という記念すべき重要な年となりました。9 月にはジャカルタにおいて ASEAN 関係首脳会議、12 月には東京で日 ASEAN 特別首脳会議が開催されました。

日 ASEAN 特別首脳会議では、「日本 ASEAN 友好協力に関する共同ビジョン・ステートメント」及びその実施計画が成果文書として採択されました。これらの文書の中で示される協力分野の一つの柱である社会・文化に関連し、主に、日 ASEAN 統合基金 (Japan-ASEAN Integration Fund: JAIF) に基づいて日 ASEAN 間で実施しているプロジェクトをご紹介します。

■行政官を育成する「アタッチメント・プログラム」 ～教育・人材育成～

JAIF で長年実施されているプロジェクトの一つに、「アタッチメント・プログラム」というプログラムがあります。これは、カンボジア・ラオス・ミャンマー・ベトナム (Cambodia, Lao PDR, Myanmar, Viet Nam: CLMV) の 4 カ国の行政官が ASEAN 事務局で 1 年間実務研修を実施して行政能力を高めるプログラムです。

100 名を超えるこのプログラムの修了生は非常に優秀であるため、さらに行政能力を高めてもらうべく、友好協力 50 周年を機に、政策研究大学院大学 (National Graduate Institute For Policy Studies: GRIPS) の元副学長に協力を依頼し、GRIPS で行政学もしくは公共政策学の修士号を取得する「アタッチメント・プログラム修了生対象の修士号取得プログラム」を策定・開始しました。

このプログラムの中では、AOIP (ASEAN Outlook on the Indo-Pacific)、東アジアの経済や国際関係、東南アジアの経済発展等について学ぶほか、日本の政治・経済・外交など、日本のことを理解するための授業も設けています。日本の本プログラムで修士号を取得した 4 カ国の行政官が、将来各国で親日の政府高官となって、日本と ASEAN、日本と CLMV 各国との間の架け橋となって良い関係を築いていってくれるよう期待しています。



アタッチメント・プログラム修了式の様子 (2024 年 1 月)

■ASEAN の文化遺産をデジタルアーカイブ化 ～文化～

JAIF により、「ASEAN 文化遺産デジタルアーカイブ (ASEAN Cultural Heritage Digital Archive :

ACHDA)」プロジェクトを実施しています。

ASEAN 地域には、他地域には見られない独自の文化遺産が多数存在します。台風や洪水等の自然災害、火事等によって破損した文化遺産を復元することは容易ではなく、場合によっては修復不能で消失したままになってしまうことさえあります。このプロジェクトは、そのような事態に備え、日本が持つデジタル技術を駆使して ASEAN 各国にある貴重な文化遺産をデジタルデータ化してオンラインで保存しておき、同時に、ASEAN10 カ国の文化遺産をオンラインで閲覧できるようにすることを目的に実施しています。



ACHDA プロジェクト HP

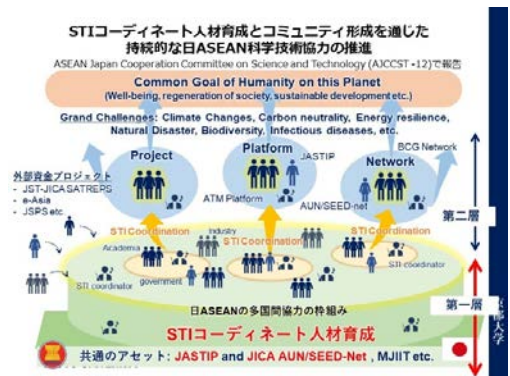
■共同研究を組成する科学技術人材を育成 ～科学技術～

科学技術力については、ASEAN10 カ国の間で大きな開きがあると感じています。そのため、個別の共同研究開発は ASEAN 各国との二国間協力を委ね、「科学技術人材」の育成を多国間協力（日 ASEAN）で実施すべきと考えています。

日本では、大学等の研究機関で、研究資金の獲得や研究のマネジメント、産学連携等に従事するリサーチ・アドミニストレーター（University Research Administrator : URA）が配置されて 10 年以上になります。近年では、URA という「職種」ではなく、研究者が幅広く身につけるべき「能力」という認識になりつつあります。

気候変動やカーボンニュートラル、災害リスク軽減、生物多様性の損失といった地球規模の課題に対処するには、科学コミュニティ・民間企業・政策立案者間の協力が必要です。そのためには、学際的かつセクターを超えたアプローチが不可欠であり、複数のステークホルダー間に立って総合調整を行い、産学連携による共同研究や国境を越えた共同研究を組成する STI コーディネーション能力（STI : Science, Technology and Innovation）が必要になります。このような能力を持つ研究者が世界中で必要となっていることは言うまでもありません。

そのような状況の下、双方の研究者がそのような能力を身につけられ、日 ASEAN 間の研究者ネットワーク構築にも繋がる研修プログラムを開発するため、現在、JAIF で「地球規模課題の解決に向けた日 ASEAN 科学技術・イノベーション連携のための人材育成」プログラムの案を検討しているところです。



STI コーディネート人材育成協力の概念

■スポーツを活用した SDGs 達成を促進 ～スポーツ～

2023 年 9 月にタイで開催された第 4 回日 ASEAN スポーツ大臣会合において、従来の 4 つの協力領域（①体育教師及び指導者の育成、②スポーツへの女性参加の増加、③障害者スポーツの推進、④アンチ・ドーピング分野における支援）に新たな協力領域⑤スポーツマネジメントの発展を加えた「チェンマイ宣言」が採択されました。この宣言中⑤の具体的取組として、「スポーツを活用した SDGs 達成に係る ASEAN 首脳宣言（2022 年 11 月）の実施支援」プロジェクトを、友好協力 50 周年を機に策定・実施しています。

このプロジェクトは、スポーツが有する情報発信力、人々の行



第 4 回日 ASEAN スポーツ大臣会合の様子

動の変化を促す力を活用して社会・経済課題を解決するため、日本が世界的にも多くの知見を有する取組を ASEAN 地域でも推進する取組です。具体的には、ASEAN 地域において特に人気が高いサッカーを活用して、同地域の重要課題となっている子どもの学習意欲向上（日本の例：地元の人気プロサッカー選手が算数ドリルに登場）や住民の医療・健康環境改善（日本の例：プロサッカーチームの医師が住民向けにもクリニックを開設）などに係る取組を推進することを目的に実施されています。このプロジェクトを通して、日 ASEAN の幅広い関係者が共同で SDGs 達成に資する活動を自発的に形成できる環境を整備することを目指します。

■日本と ASEAN の青年が交流するプロジェクト ～青少年～

日本と ASEAN の未来を担う若手交流の代表的な JAIF プロジェクトとして、「JENESYS (Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youths)」があります。

2007 年に開始された JENESYS は、日本政府と ASEAN10 カ国、そして日本とアジア太平洋地域の国々との間で、将来を担う人材を招へい及び派遣し、又はオンラインの交流を行うプロジェクトです。日本とアジア太平洋地域の人々の相互信頼と理解を促進し、将来の友好と協力のための基盤を構築すること、日本の経済・社会・歴史・多様な文化・政治・外交関係に対する理解を促進することを目的としています。これまでにこのプロジェクトに参加した日本及び ASEAN の参加青年の総数は、約 47,000 名に達しました。

また、JAIF プロジェクトではありませんが、SSEAYP は 1974 年に開始した日本と ASEAN10 カ国との共同事業で、日本と東南アジア 10 カ国の青年が「東南アジア青年の船」で共同生活しながら各国事情の紹介や討論などを行い、友好と相互理解を深めることを目的として実施しているプロジェクトです。令和 4 年度までに乗船した青年は約 14,000 名にのぼり、令和 5 年度は、日本から約 20 名、ASEAN から 90 名の青年が乗船し、女性活躍の推進や気候変動対策等の分野で青年ができることについて議論しました。

グローバル化が進む現代において、青年のうちから他の国の人間と広く関わることは、価値観の違いを認める寛容さを早くから身につけ、視野を広げることに繋がります。SSEAYP や JENESYS のような若者交流事業は、日 ASEAN の未来に直接つながる貴重なものです。事実、上記のプロジェクトの過去の参加者の中には、後に国家主席、大臣や議員になった参加者が何人もいます。こういった方々が、将来の日本と ASEAN の関係をつくる重要な役割を担っていることは言うまでもありません。



東南アジア青年の船（日本青年国際交流機構（IYEO）HP より引用）

■おわりに

これらのプロジェクトは、昨年の日 ASEAN 特別首脳会議において一致した「信頼のパートナー」として、日 ASEAN 関係がこれまで築き上げ、そして未来に向けて羽ばたく上で、最も重要な協力のひとつと言えます。また、日 ASEAN 間では、上記以外にも非常に多くのプロジェクトが実施されています。

プロジェクトを策定する過程において、日本側と ASEAN 側の考え方の違いが出てくることもあります。大切なことは、そのような時に、片方の価値観を一方的に押しつけようとするのではなく、価値観の違いに基づいて、相手が、何を求め、どのような点を重要視しているのかをお互いに把握することです。それが、win-win となる解決策と一緒に考えることにつながります。時に意見の違いがあれど、本当の信頼関係は、そういった相互理解の過程を重ねて築かれるものだと思います。

日 ASEAN 友好協力 50 周年の年が終わり、51 年目に入りました。今後も、将来の伸びしろを世界中から期待されている ASEAN と日本との間で様々なプロジェクトが実施され、それらが日 ASEAN 間の良好な関係構築の礎になることを願ってやみません。